# 地域が連携した農地の管理・利活用の取組

## 葛城山麓地域協議会
## （カツラギセブン）

**会長　池原　博文**

カツラギセブンとは

旧新庄町の葛城山麓の７つの集落が、
農地の維持保全活用を中心とした
地域づくりを目的に結成

# 1．位置・団体の概要

（設立年）2009年11月1日　協議会化

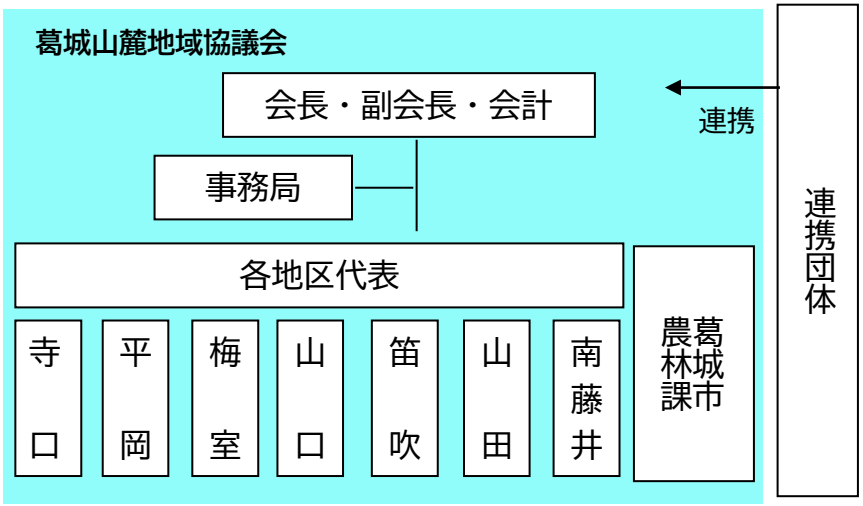
多面的機能支払交付金の活動組織の広域化がキッカケ

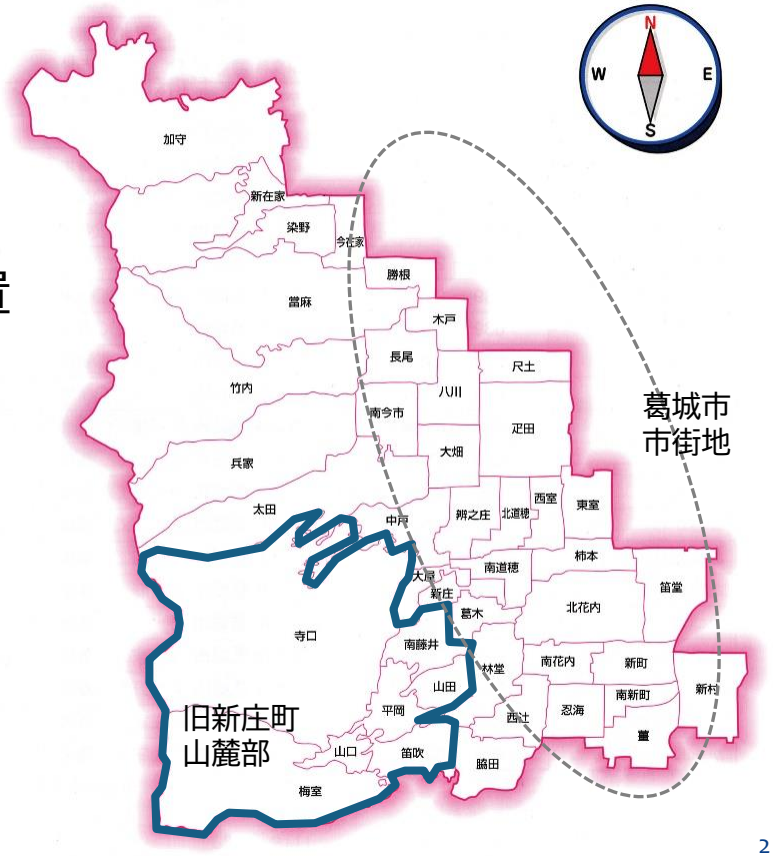
（構成員）旧新庄町の葛城山麓地域にある

７集落の自治会

構成員数：363世帯（2020年）

（役割分担）各地区の代表者により役員会を設置



# 2．発足当時の地域の問題点

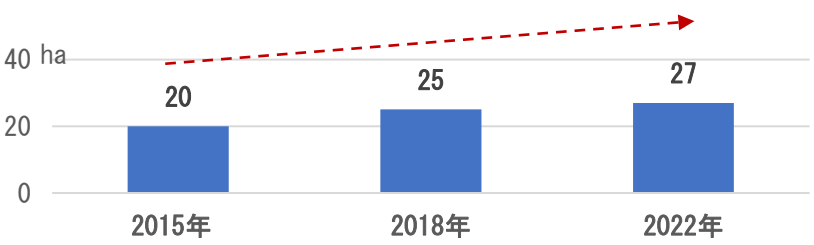
解決
したいこと

**人口減少・少子高齢化による**
**地域自治・伝統行事・農地の担い手、後継者の減少**

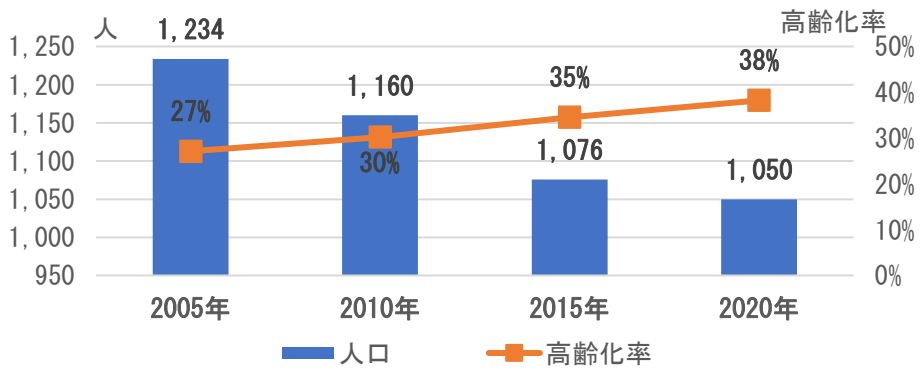
遊休農地の
保全管理面積の増大

住民の不安感の増大

**保全管理農地面積の推移**



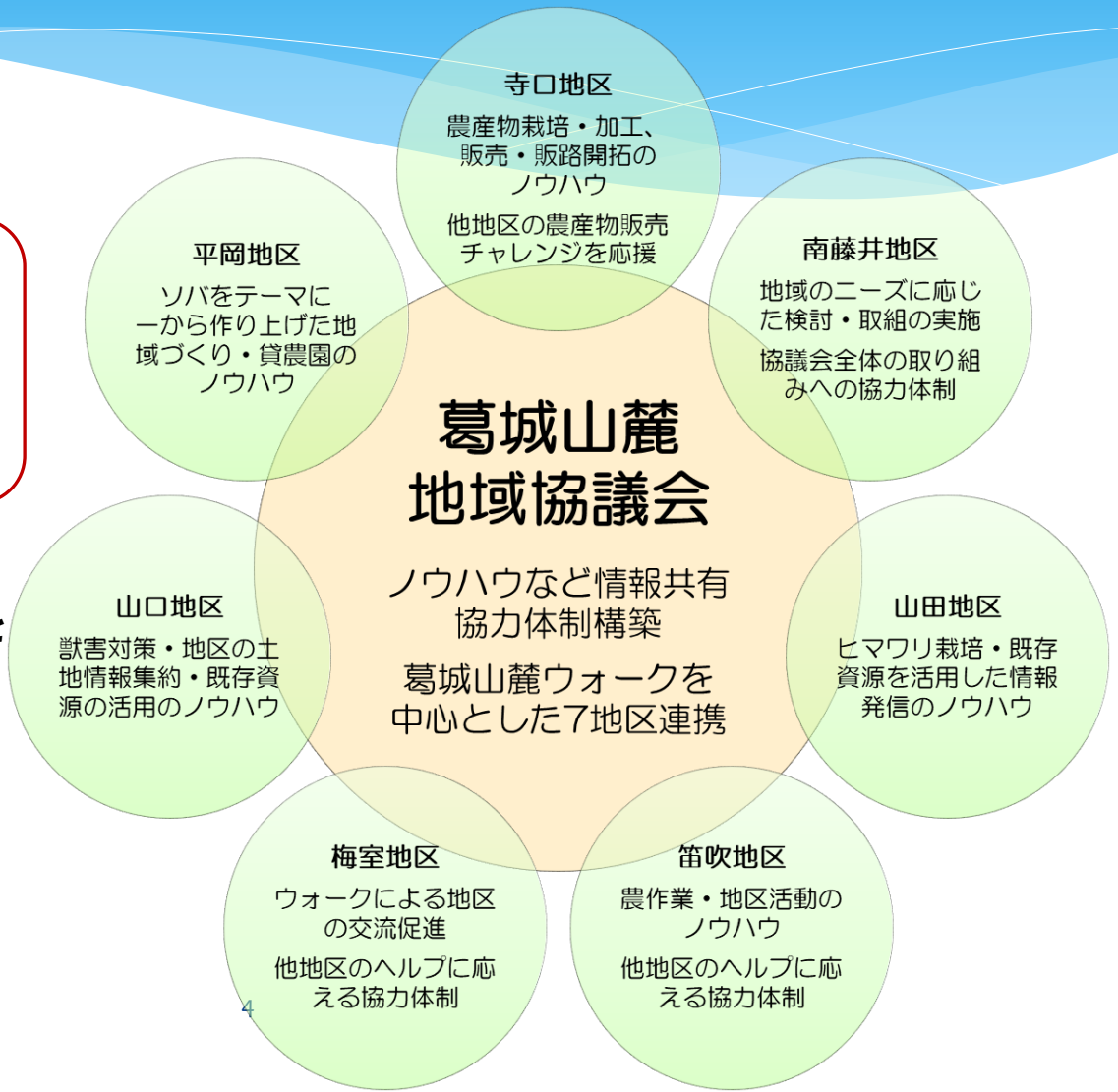

**人口と高齢化率**（高齢者施設除く）



# 各集落特性を生かした取組みと協議会でのつながりの実践（2016年～）

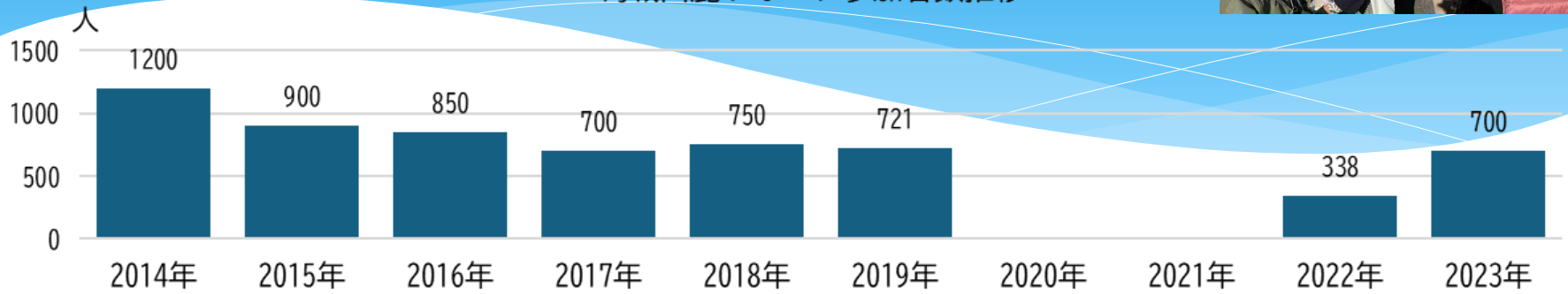
「あってよかった協議会」
をたくさん感じる
「つながり方」の実践

各地区の取り組みの良いところを
お互いに伸ばしあい、
葛城山麓ウォークで
７地区が連携する



# 各集落特性を生かした取組みと協議会でのつながりの実践
## 葛城山麓ウォーク（2014年～）
## 情報発信・試行とﾆｰｽﾞ調査の場として　毎回新たなチャレンジ

葛城山麓ウォーク参加者数推移




**2014年**
初年度奈良県の支援で実施。
①地域ごとに地域産物のふるまいがメイン。
ＪＲや近鉄のハイキング情報紙に掲載したことから千人を越える参加者。

**2015年**
葛城市の支援により実施。
①浄願寺の庭園無料公開・博西神社立ち寄りコースに。
②ゴール地点、各地区で特産品販売。

**2016年**
葛城山麓地域協議会の活動計画に基づき実施。
①わくわく市の設置。
②貸農園ニーズ調査の実施。
③そば体験プログラムのチラシ・ひまわりマップ配布。

**2017年**
①わくわく市の充実（大商大企画・実施）
②観光名所をコースに設定（重要文化財の公開）
③ルート上で農業体験（芋ほり）プログラム販売

**2018年**
①昼食需要を取り込むスタート時間を変更（売上ＵＰ）
②地域経済への貢献
・ルート上の店舗の広告をマップに掲載
・関係団体へわくわく市テント貸し

**2019年**
①各観光地点に定点ガイドを配置（観光ガイド連携）
②コミュニケーションサポーター配置（ＭＡＣＨＩＹＡ連携）
③わくわく市を大学生のフィールドワークの場に

**2020年 ← → 2021年**
コロナウイルス感染症拡大によりで中止

**2022年**
①コース逆回り（地域の立寄り順の変更の試行）
②地域新出店（梅乃宿酒造とのわくわく市）連携
（当日雨天により参加者少ない）

**2023年**
①地域新規出店（やまと薬膳、ダイニングＨＡＫＵＨＯＵ）参加
②地域活動への参加意向の調査（ＬＩＮＥ友達募集）

# 3．カツラギセブンの地域の強味・弱みと対応

| | 好影響 | 悪影響 |
|---|---|---|
| 内部環境 | **強　み**<br>豊かな自然・美しい田園風景（棚田遺産）<br>木材・竹等のバイオマス資源が豊富<br>立派な農村住宅が多い<br>歴史文化資源が豊富<br>市街地に近い・インターチェンジに近い<br>市内有望企業（梅乃宿酒造）の移転<br>子世代が近隣に在住<br>↓<br>**自然・歴史豊かな都市近郊の地で暮らせる** | **弱　み**<br>高齢化・人口減で地域運営の担い手不足<br>農業の後継者不足による耕作放棄地増<br>地域伝統行事の継承者不足による危機<br>高付加価値化（特産品の需要確立）<br>高齢世帯で買い物・通院などへの不安<br>↓<br>**地域で活動する「人」が少ない** |
| 外部環境 | **機　会**<br>日本らしい宿泊や体験の需要の高まり<br>若者の田舎回帰の機運<br>↓<br>**田舎・古いものに注目する傾向** | **脅　威**<br>山林放置による土砂災害の危険性<br>空き家の腐朽<br>↓<br>**何らかのアクションを起こし対処必要** |

次頁参照

# つなぐ棚田遺産指定　～ふるさとの誇りを未来へ～

## （葛城山麓地域の棚田2021年）

葛城山麓地域の棚田

葛城山麓地域の棚田

山麓ウォーキング風景

**所在地**　葛城市寺口・南藤井・平岡・山口・笛吹・梅室・山田地区

**面積**　36.6ha

**法面の構造**　土羽

# ４．遊休農地等を活用した取組み

## 地域での各作物栽培主体の育成に向け
## 役員・協力団体等での試行栽培を継続実施

スペルト小麦栽培　→希少価値のある品種で戦略的販路開拓

薬草栽培（大和当帰）　→薬膳料理教室（やまと薬膳）との連携

（ダイコンなど）　→薬膳料理教室用作物の栽培

ソバ栽培　→（同上）、地域でのそば道場の継続

山椒栽培　→獣害に強い作物として栽培方法の確立

# ５．活動開始と現在の変化

## 協働での取り組みの継続

→掲げたビジョンを「やってみる」

（ウォークイベントも継続方法を模索しながら）

定例役員会（年10回程度）

## 多様な主体の連携

→やまと薬膳、MACHIYA（外国人交流）

Coco-Make 葛城　（就労支援施設）

観光ボランティアガイド

地元店舗　など

MACHIYAさん協力による情報発信

# ６．課題

## 地域の取り組みに共感し「人」が集まる仕掛け

→将来的な不安材料である地区運営体制・農用地活用者確保、生活支援に対処

共感し応援したくなる取り組みを戦略的に実施し関わる「人」を増やす

一緒に
取り組みたい企業 人 金

クラウドファンディングで応援 金

活動に参加 人

**共感し応援したくなる取り組み**

**農用地保全**
獣害に強い
収益性確保

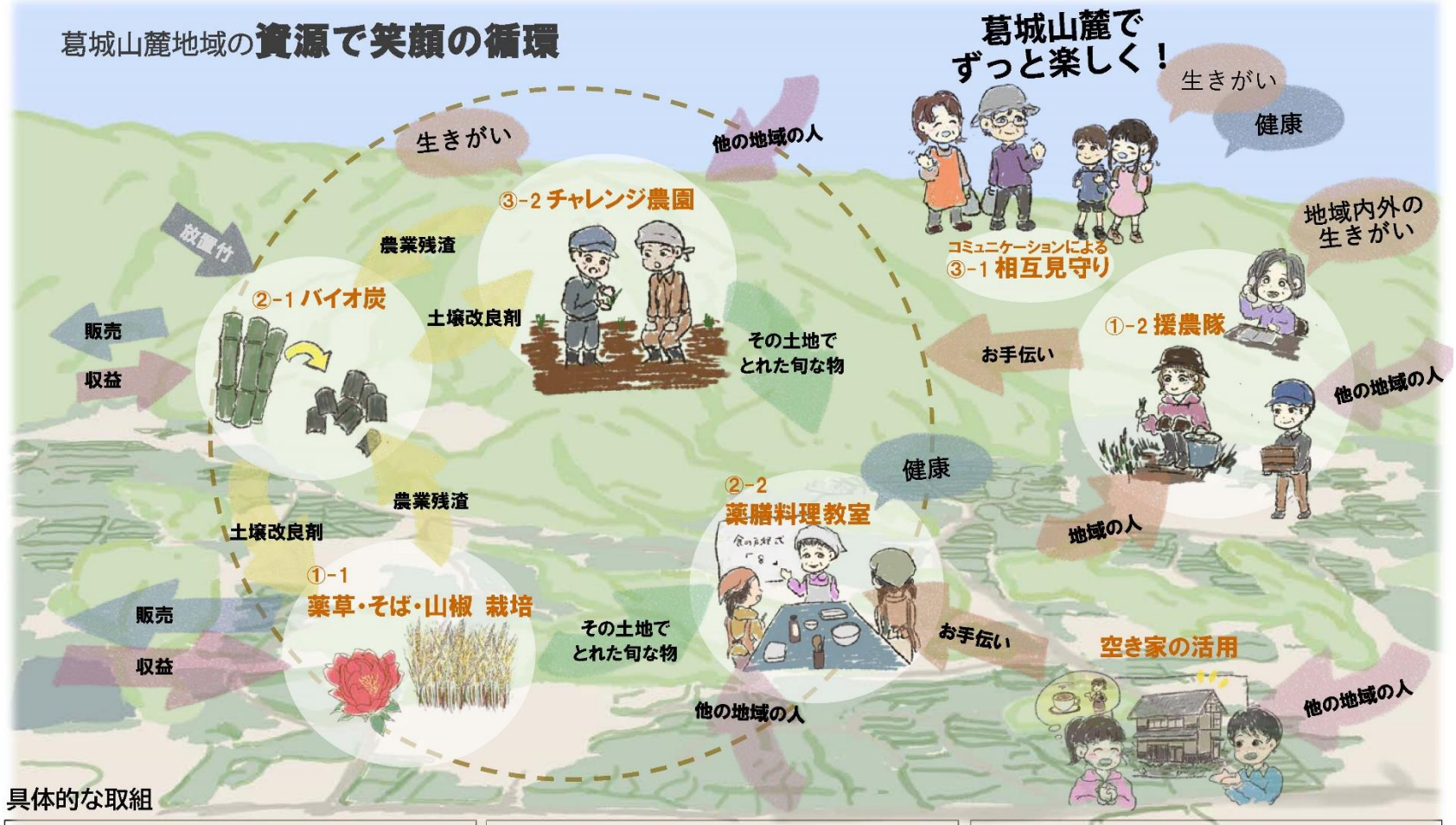
**地域資源活用**
バイオマス活用
地域産品で健康

**生活支援**
相互の見守りを促進する仕掛け

**将来直面する**
**生活支援に関わる**
**人のストックにつながる**

**「人」の関わり**

# 7．今後の展開




## 具体的な取組

### ①農用地保全

①-1　獣害に強い作物栽培

耕作放棄地を活用し、諸条件に適合した獣害に強い作物である「ソバ・薬草・山椒等」栽培について試験栽培を行う。

①-2　援農隊の組成

「資源で笑顔の循環」に興味をもつ地域内外の方で、希望者が農業に参加できる組織をつくる。援農隊として、葛城山麓での各取り組みを応援する。

### ②地域資源活用

②-1　バイオ炭で循環地域

里山の竹や雑木等の資源化、農業残渣物の環境に配慮した有効活用について、技術的な面での有効性を確認する。

②-2　薬膳料理教室で健康に

地域住民の健康への意識を高める薬膳教室を開催し、その地でできた旬のものを食べる「薬膳料理」を浸透させる。教室には、地域外からも受け入れる。

### ③生活支援

③-1　健康づくり見守りカレンダー（相互見守り）

写真が集合場所になる、日めくりカレンダー。散歩、農作業のついでに集まって交流。地域児童の見守り、情報交換をすることで、高齢者の相互見守りや健康づくりにつながる。

③-2　交流が生まれるチャレンジ農園

農業をやってみたい人、住民の方、行けば誰かがいる農園として交流と生きがいを生む。